



このコーナーでは、男女平等参画をはじめとするさまざまなテーマの本を紹介し、男女平等推進センター「パリテ」の図書コーナーで貸し出していますので、ぜひご利用ください。



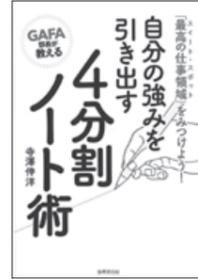
3万人の大学生が学んだ
恋愛で一番大切な「性」のはなし
著者：村瀬幸浩
出版社：KADOKAWA

著者が「人間と性」について語ってきた講義の要約と学生のレポートが紹介されています。内容は「デートDV・互いの性を理解する・結婚するってどういうこと？」等。性と人間関係の理解を深め、幸せな人生を歩むためのヒントを与えてくれる書。



女の子だから、男の子だからをなくす本
文：ユン・ウンジュ
絵：イ・ヘジョン 訳：すんみ
出版社：エトセラブックス

この本は女の子だからってゆずってあげなくていいんだよ、男の子だって好きに泣いていいんだよと沢山の事例を交え自分を大切に方法をお教えしてくれます。イラストも多く子どもと一緒に読める、ジェンダーにとられない考え方が詰まった一冊。



GAGA部長が教える
自分の強みを引き出す4分割ノート術
著者：寺澤伸洋
出版社：世界文化社

自らの現在の立ち位置を振り返り、自分ができること、強み弱みを理解し、ありたい姿に近づくためにはどうすればいいのかが、ワークを通して深掘りできます。最高の仕事領域が見つかる！年齢に関わらず一読の価値あり。

日々の暮らしの中から実現できる! SDGs第5の目標「ジェンダー平等」

「SDGs」とは、すべての人類が貧困や不平等、暴力から解放され、地球環境と調和しながら幸せに暮らし続けるために設定された、全部で17の目標のことです。そのうちの5番目に挙げられているのが「ジェンダー平等を実現しよう」という目標。ジェンダーとは、社会的・文化的な背景や役割によってつくられた性別のことですが、世界規模の視点で見ると、「女性だから」というだけの理由で教育が受けられない、望まない結婚を強制される、政治に参加できないという差別を受けている女性がまだ数多く存在しています。

ただこれは、途上国ばかりの問題ではありません。先進国であるはずの日本でも、長年根付いた性別役割分担意識によって女性ばかりに家事・育児・介護の負担が偏り、いざというときにキャリアをあきらめるのは女性の方だったり、同じ仕事をしていてもなぜか女性の賃金は低かったりといった男女格差がまだ存在しています。また内閣府によると、パートナーからの暴力(DV)を経験している成人女性も3人に1人という高い割合で存在しているのです。

女性活躍は推進されてきたものの、ジェンダー不平等の解消に向けた取り組みはまだ十分と言えない日本社会。今号の特集でも紹介した「アンコンシャス・バイアス」を意識して、家事・育児・介護などを家族全員で平等に分担する方法を考え、一人ひとりが日常生活の中からジェンダー平等を実現できるようになるといいですね。

パリテだより

センターパリテでは、さまざまなイベントを開催しています。
2021年12月までの主な事業をご報告いたします。



2021年9月29日(水)

見違えるほど在宅ワークがはかどる!
～PCデータ整理で効率アップ～
講師：山口香央里さん
PCデータを整理することの大切さとデータ整理の仕組みを学んだ講座でした。PCデータが整理されている→時間・心のゆとり→生産性・人間関係向上→信頼獲得と、好循環になります。



2021年10月14日(木)から連続6回

完璧な親なんていない
「ノーバディズ・パーフェクト
～一緒に子育てを楽しもう!」
講師：吉田朋子さん(NPO法人
ワーカーズ・コレクティブちろりん村)
カナダの子育て支援プログラムです。参加者主体の講座で話し合いのテーマも参加者が決めます。「自分の悩みを話せるし、同じ子育て中の親の課題が共有できてよかった」と感想がありました。



2021年10月27日(水)

ベビーマッサージ
& ママの簡単ストレッチ
講師：飯岡祐子・篠宮晃子さん
マッサージ後にすやすや眠る赤ちゃんたちの様子を見て、母親の笑顔と楽しそうな声が何よりも大切なのだと感じました。助産師さんへの質問タイムや座談会もあり、来た時よりもリラックスしたママたちの笑顔が印象的でした。

ステキに男女平等参画!

in 西東京

綺麗になりたい人を応援したい

「セクシュアルマイノリティ」編

株式会社 Charis 共同代表

青木未央さん(西東京市在住)



美容系の会社を経営するため、大学卒業後に大学院と併行して美容の専門学校に通い、経営学修士号と美容師の資格を取りました。その後、数年間フリーのメイクアップアーティストとして働く傍らLGBTとしての活動もしていましたが、2020年1月に市内に化粧品販売や美容関連の会社を立ち上げ、今は社長業に専念しています。

2021年夏、縁あって第1回「MissMiraiコンテスト」に応募したところ、〈初代ミス未来特別賞〉を受賞しました。この大会は、単に美を競うのではなく、今までにない発想をもって未来を切り拓いていく女性に焦点を当てたもので、受賞できたことをとても光栄に思っています。

わたしは、大学3年の時にトランスジェンダー(TG)であることをカムアウトしました。当時交際していた女性は今の妻ですが、わたしの起業の背景には、彼女のためにも、「将来必ずトップになって、この世界を変えてい

く!」との誓いがあります。

今もTGとして生きること、様々な場面で差別を受けたり、生きづらさを感じることはありますが、起業を思い立った5、6年前は、LGBTが今ほど認知されておらず、TGの人は就職できないと言われていました。

そこでわたしは、「性別に関係なく、能力のある人がそれを発揮して働ける会社を自分で創ろう」と決意したので。そうして実績を示せば、他の会社もTGの人を雇うきっかけになるのではないのでしょうか。

会社はスタートしたばかりですが、今後は男も女も関係なく、〈綺麗になりたい人を応援する会社〉にしていきたいし、ジェンダー差別など一切ない社会を構築していければと思います。